

小平版ネウボラ（ゆりかご・こだいら事業）について

核家族化や地域のつながりの希薄化等による育児の孤立化

子育て世帯の不安感や負担感の軽減が必要

小平版ネウボラ事業（ゆりかご・こだいら事業）

【目的】すべての子育て家庭に対して妊娠期から、市の保健師や助産師等が関わることにより、出産・子育てに関する不安を軽減するとともに、各家庭のニーズに応じた支援を妊娠期から就学前にわたって切れ目なく行うことにより、妊娠・乳幼児・保護者の心身の健康の保持・増進を図る。

事業開始予定：平成29年8月（8月5日号市報、ホームページに掲載）

※育児パッケージは、準備ができ次第、順次配布。

母子保健施策の現状

- ◇各種訪問事業や健診により、子どもの成長の段階で広く子育て家庭に関与
- ◇産後うつスクリーニング等の実施
- ◇一方、妊娠期における取組みは、妊娠届出時のアンケートに基づくハイリスク・アプローチが中心
- ◇多くの家庭では、産後に比べて、妊娠期には行政機関との関わりが希薄

取組みの方向性

- ◆予防支援の視点でポピュレーション・アプローチを強化
- ◆「産後うつを早期に発見する取組」から「産後うつを発生させない取組」へ

ゆりかご・こだいらの実施方法

妊娠届の受理、母子手帳の交付、アンケート＋育児パッケージ

健康センター（健康推進課）窓口

- すべての妊婦を対象として、保健師等が面接を行い、心身の状態や家庭の状況を把握する。（サポートプランの作成）
- 育児パッケージ（こども商品券を予定）を直接配布する。

支援を要する家庭には、「産前産後サポート事業」による家庭訪問等の必要な支援を行う。